

【参考】ヒグマとの危険遭遇事案発生状況

2024年度 1例目		
項目	内容	
発生日時	令和6年（2024年）4月25日 10時30分頃	
発生場所及び付近状況	住所	名寄市智恵文 智東三線林道（比翼の滝に向かう林道）
	付近の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・車両1台が通れる程度の幅の砂利道で、両側が草藪 ・林道の片方が上り斜面、他方は川に続く下り斜面 ・滝の音が大きく、周囲の音は聞こえづらい
遭遇者情報	居住市町村	愛知県在住
	年齢・性別 被害の状況	50歳 男性 ケガ等の被害なし
	鳴り物等の 携帯	クマ鈴やラジオ、クマスプレー等は携帯していなかった
発生状況	遭遇者の行動	<ul style="list-style-type: none"> ・比翼の滝を目的地としてレンタカーで移動中、道を確認するため、林道の真ん中に車を停めて下車 ・数秒後、約4m離れた草藪からヒグマ2頭が現れ、大きな方のヒグマが遭遇者にゆっくりと接近してきたため、逃げてくれることを期待し、声を出しながら頭部左側を蹴った ・ヒグマが逃走したため、予定どおり比翼の滝を見学し、その後、警察に通報した
	発生時間帯	10時30分頃 曇り、気温12.5℃、北北西の風・風速3.5m/s、 降水量0.0mm（名寄のアメダスデータ）
出没個体の 特徴	行動形態	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな方のヒグマは草藪から出たところに留まり、遭遇者を見ていた ・大きな方のヒグマはうなり声をあげながら、遭遇者の背後に回り込むように接近した
	痕跡	周辺における目撃及び痕跡情報なし（名寄市HPより）
	逃避行動等	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな方のヒグマは、遭遇者の蹴りを受け、上り斜面に向かって走って逃げた ・小さな方のヒグマは、遭遇者が車に乗ると、上り斜面をまっすぐに駆け上がっていった
対応状況	出没個体への 対応	なし
	住民への対応	当面の間、滝に至る林道への立ち入りを禁止
考察	発生要因	<ul style="list-style-type: none"> ・2頭のヒグマは親子または兄弟であった可能性があり、親子の場合は子を守るため、兄弟の場合は興味本位の接近であったと考えられるほか、車両の接近あるいは人の出現に驚いて、自己防衛のために接近してきた可能性も考えられる
	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒグマの生息域に入る際は、周囲をよく観察してヒグマの存在を察知することや、クラクションを鳴らすなどして人の存在をヒグマに知らせるなど、ヒグマと遭遇しないための対策をとることが重要 ・本事例においては、ヒグマは頭部を蹴られただけで逃走したが、反撃を受けて事故につながる危険性もあったため、より追い払い

		効果が強いと考えられるクマスプレーを携帯し、使用できるよう備えることが望ましい
その他		<ul style="list-style-type: none">一度追い払った後に再び近づいてくる危険性もあることから、ヒグマとの危険な遭遇があった際は、すぐに引き返し、速やかに警察等へ通報することが望ましい

【参考】ヒグマとの危険遭遇事案発生状況

2024年度 2例目	
項目	内容
発生日時	令和6年(2024年)6月17日 19時30分頃
発生場所及び付近状況	住所 美唄市東明2区(ふるさとの見える丘展望台に至る道路)
	付近の状況 <ul style="list-style-type: none"> 展望台へ向かう幅約5mの舗装道路 遭遇場所は標高約230m、展望台から数百m手前の地点 道路わきにはシラカンバやササが生育し、ササはヒグマが隠れるほどの高さ
遭遇者情報	居住市町村 美唄市在住
	年齢・性別 被害の状況 60代 男性 ケガ等の被害なし
	鳴り物等の携帯 <ul style="list-style-type: none"> スピーカーで歌謡曲を流していた クマスプレーを携帯していた(使用経験あり)
発生状況	遭遇者の行動 <ul style="list-style-type: none"> 19時過ぎにジョギングを開始 展望台から数百m手前の直線路を走っている際、右側の藪からうなり声が聞こえた気がして、10mほど進んだ位置で停止 振り返ってウエストポーチからクマスプレーを取り出し、ストッパーを外して大声を上げていると、うなり声が聞こえた辺りの藪からヒグマが現れ、走って向かって来た 約5mの距離でスプレーを噴射し、4-5秒間噴射し続けると、ヒグマは遭遇者から2-3mの距離で方向転換し藪へと走り去った ヒグマの逃走後、気配を感じなくなってからすぐに引き返し、公園管理事務所に目撃情報を報告後、帰宅してから警察に通報
	発生時間帯 19時30分頃 曇り、気温22.4℃、南の風・風速6.0m/s、降水量0.0mm(美唄のアメダスデータ)
出没個体の特徴	行動形態 ガードレールを乗り越えて、うなり声をあげながら遭遇者に向かって走って接近
	痕跡 なし
	逃避行動等 クマスプレーの煙を浴びながらも進み続けたが、遭遇者の2-3m手前で方向転換して藪に走り去る
対応状況	出没個体への対応 なし
	住民への対応 <ul style="list-style-type: none"> ふるさとの見える展望台に至る道のふもとのゲートを封鎖 出没注意看板を設置 市役所によるパトロールを実施 目撃情報を市のスマホアプリとホームページに掲載
考察	発生要因 <ul style="list-style-type: none"> 出没個体は遭遇者の手前で逃走し、執拗につきまとうといった行動を見せなかったことから、捕食等目的の積極的な攻撃とは考えにくい うなり声が聞こえてからの突進であるため、近くにシカの死体などの食物があった場合や近くに子グマがいた場合、これを守る防衛的な攻撃だった可能性がある

	<p>対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ヒグマの活動が活発になる薄暮時にヒグマが生息する環境で単独で活動することはリスクの高い危険な行為であるため、ヒグマが居そうな環境や時間帯を避け、複数人で活動することが望ましい • 絶えず音が鳴り続けていると、動物の声や藪の音等の周囲の音が聞き取りにくくなる恐れがあり、ホイッスルの使用や要所で声を出すなど、より遠くまで音が届き、かつ周囲の音を聞くことができるような対策が望ましい • 使用されたクマスプレーは使用期限が切れ、使いかけの状態だった。結果的にヒグマが走り去るまで噴射し続けることができたが、クマスプレーを所持する際は、使用期限が切れていないことや残量が十分あることを定期的を確認する必要がある • 遭遇者は、現場はヒグマがいる環境であることを認識し、音を鳴らす、クマスプレーを所持するといった被害防止対策をとって入山し、うなり声が聞こえたような気がした時点で、ヒグマの姿を見る前からクマスプレーを使用できるよう準備していたことで、その後の突進にも対処できた。さらに、遭遇者はクマスプレーの使用経験があり、これがストッパーを外す動作の素早さやスプレーの圧力に動じることなく噴射し続けることにつながった可能性がある
<p>その他</p>	<p>• 事前の訓練と平時から適切な対策を実施しておくこと、ヒグマがいることを前提として迅速に判断し行動することが、被害防止に重要である。</p>	